

平成 31 年第 1 回牧之原市議会定例会 一般質問通告（要旨）

平成 31 年 3 月 7 日（木）

1 原口 康之 議員

1	件名	牧之原市の水産業の振興について
	(1)	農業・水産業の振興事業で水産業事業が少ない理由を伺う。
	(2)	平成 30 年度実施計画のうち、水産物を活用した産業活性化事業の内容を伺う。
	(3)	牧之原市沿岸部活性化計画を進める上での水産業との連携・協力体制の考えを伺う。

2 良知 義廣 議員

1	件名	富士山静岡空港を核とした空港周辺のまちづくりについて
	(1)	新幹線新駅の設置への働きかけについて 市長は、県知事の理解を得ながら、共に、市民、県民のために、JR東海に対して新幹線新駅設置の積極的な行動を起こす意欲があるのか。
2	(2)	市独自の「道の駅」設置構想の有無について 市長は、これから設立し、理事長となる一般社団法人「まきのはら産業・地域活性化センター」の中に、空港周辺の活性化を図るため、適地を取得し、「道の駅」を設置する構想があるか。
	件名	選挙の事前運動禁止違反容疑文書に絡んでの市長の政治姿勢について
(1)		市長は、公職選挙法違反容疑文書の中に、自分の名前を書かれたことについて、どのように受け止め、今後、自己防衛の観点から、自らの政治姿勢をどのように考えているか。

3 村田 博英 議員

1	件名	市の観光施策について問う
	(1)	牧之原市観光協会の今後についてその役割とビジョンを伺う。
	(2)	富士山静岡空港民営化に対する施策と新幹線新駅を含む市の施策は何か伺う。
(3)		IR の誘致について表明したがどのような状況なのか、県や国の認定はどんな手順を踏むのか、また投資会社は何社か、その背面調査や PRI（責任投資原則）についての妥当性を問う。

#### 4 濱崎 一輝 議員

1	件名	高齢者及び障害者の財産保護について
	(1)	特殊詐欺の市内での被害状況と対策について伺う。
	(2)	成年後見制度の利用状況と、市町村長申し立てについて伺う。
(3)	国が提供しているリバースモーゲージ（不動産担保型生活資金）について伺う。	

#### 5 藤野 守 議員

1	件名	ギャンブル場（カジノ）を中核とする統合型リゾート施設（IR）の誘致について
	(1)	IRの誘致決定までの経緯について
	(2)	IRの構想について
(3)	IR誘致による影響について	

平成31年3月8日（金）

#### 6 大石 和央 議員

1	件名	原子力災害広域避難計画について
	(1)	避難計画方針書について、昨年度の「同計画策定方針書」との違いやこの方針書を計画と位置付ける理由は何か。
	(2)	この計画の完成度はどのくらいか。
(3)	実効性ある計画とはどのようなものと考えているか。また住民説明会を実施して、避難についての課題対応する必要はないか。	
2	件名	小中学生のための放射線副読本について
	(1)	専門家により問題点が指摘されているが、この副読本はいつからどのような理由でどのような経由で学校に配本され、児童生徒に配布されたのか。
(2)	市長及び教育長は「放射線副読本」について、その内容をどのように評価しているか。	

	(3)	各学校ではどのように活用されているか。
3	件名	市の農業政策・施策について
	(1)	市長施政方針について、お茶の一体的な取り組みとは具体的にどのようなものか。また、農業全体の底上げをどのように考えているか。
	(2)	耕作放棄地について、転作など農地再生についての施策・支援策についてお聞きする。また、食の安全と農業者の育成についての所見を伺う。
	(3)	食と農林水産業を基軸としたまちづくりについての条例が必要と考える。例えば「今治市食と農業のまちづくり条例」のような条例策定を提案する。

## 7 平口 朋彦 議員

1	件名	職務権限を移管しようとしている一連の流れについて、その考え方と方向性を問う
	(1)	今回の考え方は、第2次総合計画の後期基本計画からはどうあっても読み解けない。市の持つありとあらゆる全ての計画や方針等との整合性はしっかりと取れているのか。
	(2)	社会体育施設の「公共施設マネジメント基本計画」への取り組みについて、主体性の所在が掴みにくくなるといった懸念を持つがいかがか。また建議「市内社会体育施設グラウンドの芝生化について」は、どういった扱いになるのか。
	(3)	目的としている競技スポーツの振興は、学齢期、青少年層をターゲットとした取り組みが主になるのか。
2	件名	地域資源である近代化産業遺産「相良油田」を積極的に観光資源として活かしていくためには
	(1)	相良油田坑及び油田の里公園全般において現状、認知している課題と今後の対応は。
	(2)	教育及び体験を今よりも前面に押し出した更なる観光資源化の可能性は。
	(3)	日本一の発行部数を誇り多くの読者を抱えている雑誌に取り上げられていることを受け、出版社や原作者、関連があると思われる企業等にコラボレーションを打診するなど、積極的にアクションを起こすべきだと考えるがいかがか。